クミアイ化学工業株式会社
【本社】〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26
TEL.03-3822-5036
https://www.kumiai-chem.co.jp

UD FONT
見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用
しています。

CSRレポート2020

Create the Future

新たな可能性への
チャレンジ

クミアイ化学工業株式会社

価値ある製品を創り、社会課題の解決へ

古来、人のいのちを支えてきた「農業」。
クミアイ化学工業は、国産第一号の農薬を市場に提供して以来、
安全で効果的な農薬の研究開発・普及を図ることで、
人と自然の調和が織りなす豊かな実りを守ってきました。
日本での小さな一歩から始まった私たちは、
グローバル規模での食料の安定確保という課題に直面し、
世界に向けて大きく踏み出しています。
農薬の創製から製造・販売に至る一体化したプロセスにより、
さらなる研究の精度と製品の品質向上を目指して
人類共通の食料問題解決への挑戦を続けてまいります。
さらに、現在は第二の事業の柱として化成品事業も加わりました。
そして、今、クミアイ化学グループは、
農薬および農業関連事業、化成品事業、賃貸事業、発電および売電事業、
建設業、印刷業、物流事業、情報サービス事業などの事業を展開しています。
これからも人の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供に努めてまいります。

── クミアイ化学グループ企業基本理念 ──

私たちは創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、
安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します。

── 行動指針 ──

1.社会への奉仕　2.創意工夫　3.積極にして果敢　4.理解と信頼

── ステークホルダーとの関わり ──

編集方針

はじめに

「クミアイ化学グループCSRレポート2020」は、当社グループのCSR基本方針に基づき、CSRの課題、目指す方向性および取り組みの進捗をステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に発行しました。

本レポートの基本的な構成立てとしてISO26000の中核主題に沿った形で取り組みを掲載しています。またCSRの取り組みとSDGs（持続可能な開発目標）の関連性も示す報告となっています。

2020年1月に日本国内でも感染者が確認され、今なお感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、当社グループの事業にも大きな影響を与えました。本レポートでは、お客さま、従業員の安全・安心を確保する新型コロナウイルスの感染防止策やコロナ禍における商品供給体制の維持などについて報告しています。

また当社グループでは今年度初めてCSRのマテリアリティ（重要課題）の特定に取り組みました。特定プロセスと9項目のマテリアリティの主な取り組み、目標指標について開示しています。

今後、ステークホルダーの皆さまからいただくさまざまなご意見を十分に活かしながら、継続的なCSRの取り組みの向上につなげていくとともに、本レポートの充実も図っていきます。

【報告対象期間】
2019年11月～2020年10月の取り組み期間を中心に報告していますが、一部、期間外の活動や継続的な取り組みも取り上げています。定量データは、原則直近5年間の経年推移を掲載していますが、一部グループ会社の単年データを記載している箇所があります。

【報告対象範囲】
本レポートは、クミアイ化学グループのCSRの取り組みを開示する報告書となっています。ただしクミアイ化学工業株式会社単体の取り組み、またはグループ会社個別の取り組みを掲載している箇所があります。

【発行時期】
2021年1月（次号2022年1月予定）

【参考ガイドライン】
- ISO26000（社会的責任に関する手引）
- GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

※報告書の記述について
本レポートには過去と現在の記述だけでなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。これらは記述の時点で入手できた情報に基づく仮定や判断に基づくものであり、将来の活動や結果が掲載内容と異なる可能性があります。

【SDGsに関する取り組み】
当社グループは2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」の達成に向け、事業活動を通じ社会課題の解決に貢献しています。当社グループは今後も、「いのちと自然を守り育てる」ことを目指し、従業員一人ひとりが日々の取り組みにおいて、SDGsの達成に向け寄与していきます。

Contents

トップメッセージ……3
クミアイ化学グループの事業活動マップ……5
クミアイ化学グループ　会社概要……8
特集1 除草作業の効率化が農村の貧困を救う……9
特集2 社会基盤を支える素材の原料を供給する……11
マテリアリティ（重要課題）の特定プロセス……13
クミアイ化学グループ企業基本理念とCSR基本方針……14
組織統治……15
人権と労働慣行……17
公正な事業慣行……19
安全衛生……21
環境……23
消費者課題……25
コミュニティへの参画・発展……27

ESGやSDGsの意義をグループ全体で共有することによりさらなる企業価値の向上を目指します。

はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになった方々、ご遺族の皆さまに謹んで哀悼の意を表します。また、罹患された方々と感染拡大により生活に影響を受けられている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

コロナ禍に加え、5月～7月の豪雨と長雨による日照不足、8月の記録的猛暑により、甚大な影響を受けられている農家の皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大への対応についてお聞かせください。

新型コロナウイルス感染症は、わが国の農業にもさまざまな影響を及ぼしていますが、食料生産は継続しています。当社は製品やサービスを通常通りに安定供給する社会的責任を果たさなければなりません。そのため工場は厳重な感染防止策を講じた上で操業を続け、支店・営業所も各自治体の方針に従って活動しています。物流部門においては、万一感染者が発生しても業務が滞らないように担当者を2つのグループに分けて、互いに接触しない体制を構築しました。さらに、経理部門でも同様の対策を取り、経理処理や決算業務が滞ってお客さまやお取引先にご迷惑をかけないように配慮しています。

グループ内の感染防止対策につきましては、2020年2月19日にパンデミック対応BCPに基づいてパンデミック対策本部を立ち上げ、従業員の健康・安全の確保を最優先に、在宅勤務・サテライト勤務の推奨や時差出勤など感染防止対策を講じました。（➡P15組織統治の項を参照）

従業員からも除菌フィルター付き高度清浄加湿装置の設置、デスクおよび共有事務機器の消毒などの感染防止対策が提案され、実施しています。こうした感染防止に努める従業員への感謝と、農家の皆さまへの応援を兼ねてJAタウンギフトカードを全従業員へ贈りました。各地の農産物や特産品を楽しみ、感染拡大防止対策で疲れた心身を癒してほしいとの思いを込めたものです。

また、コロナ禍における社会貢献活動の一環として、グループ会社であるケイ・アイ化成の抗菌剤を使用した「介護用使い捨てウェットボディタオル」を本社および工場、研究所の所在地である8自治体へ寄贈しました。従業員には、「個々人として最大の社会貢献は感染しないこと」というメッセージを発信し、全社一丸となって感染防止に最大限の力を注いでいます。

CSRのマテリアリティ特定に取り組まれたと聞きました。重視したのはどんなことですか。

マテリアリティを特定し、取り組みや目標を決めても、ただの絵に描いた餅では意味がありません。日々の業務の中で取り組んでもらうために、中期経営計画、クミアイ化学工業やグループ各社の重要方針に紐づけて候補を抽出し、12項目の課題を特定しました。（➡P13マテリアリティ（重要課題）の特定プロセスの項を参照）

特定したマテリアリティのうち、クミアイ化学グループとして重視したのは、「働きがいと人材の育成・活用」と「農業イノベーション型製品の創出」です。

当社は、仕事を通して自己実現ができるように「存在感」、「達成感」、「将来の希望」を持つことの大切さを従業員に説いて意識改革を促してきました。「働きがいと人材の育成・活用」をマテリアリティとしたのは、働きやすさを追求するだけでなく、働きがいを感じることで従業員幸福度の向上を図るためです。

「農業イノベーション型製品の創出」は、当社グループが人々の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供を通して、社会の持続的発展に貢献できる企業集団を目指すための重要な課題と捉えています。主な取り組みを豆つぶ®剤に絞ったのは、自社の製品やサービスがどのような形で社会の役に立っているのかをCSRという観点で見直し、その取り組みを推し進めてほしいというメッセージを従業員に示すためです。今後、従業員やグループ各社から、CSRにつながる取り組みを提案してほしいという期待を込めています。

SDGs活動の浸透と実践についてお聞かせください。

SDGsに対する意識を高める取り組みを進めていますが、まだ十分に浸透していないのは否めません。

しかし、クミアイ化学グループの事業活動はSDGsの目標に馴染みやすいことから、徐々に浸透が進んでいくと考えています。グループのSDGs活動をまとめるプロセスで、17の目標と既存事業との関連性を認識できたのは大きな収穫です。たとえば、豆つぶ®剤は環境保全（薬剤の飛散防止、投下製剤量の低減）と散布作業の省力化（労力および時間の軽減）の両立を可能にしました。インドにおけるノミニーゴールドの普及も、手取り除草から解放された農業労働者が工場に勤務することで所得が増え、貧困の解決に貢献しています。

これらの本業を通じた社会課題の解決は、SDGsの目標に先んじて積み重ねてきた成果です。今後もグループ内の技術や経営資源を活用して、スマート農業をはじめとするイノベーションの創出を目指すとともに、新たな社会課題の解決に取り組んでいきます。

グループ全体でCSRに取り組む意義についてお聞かせください。

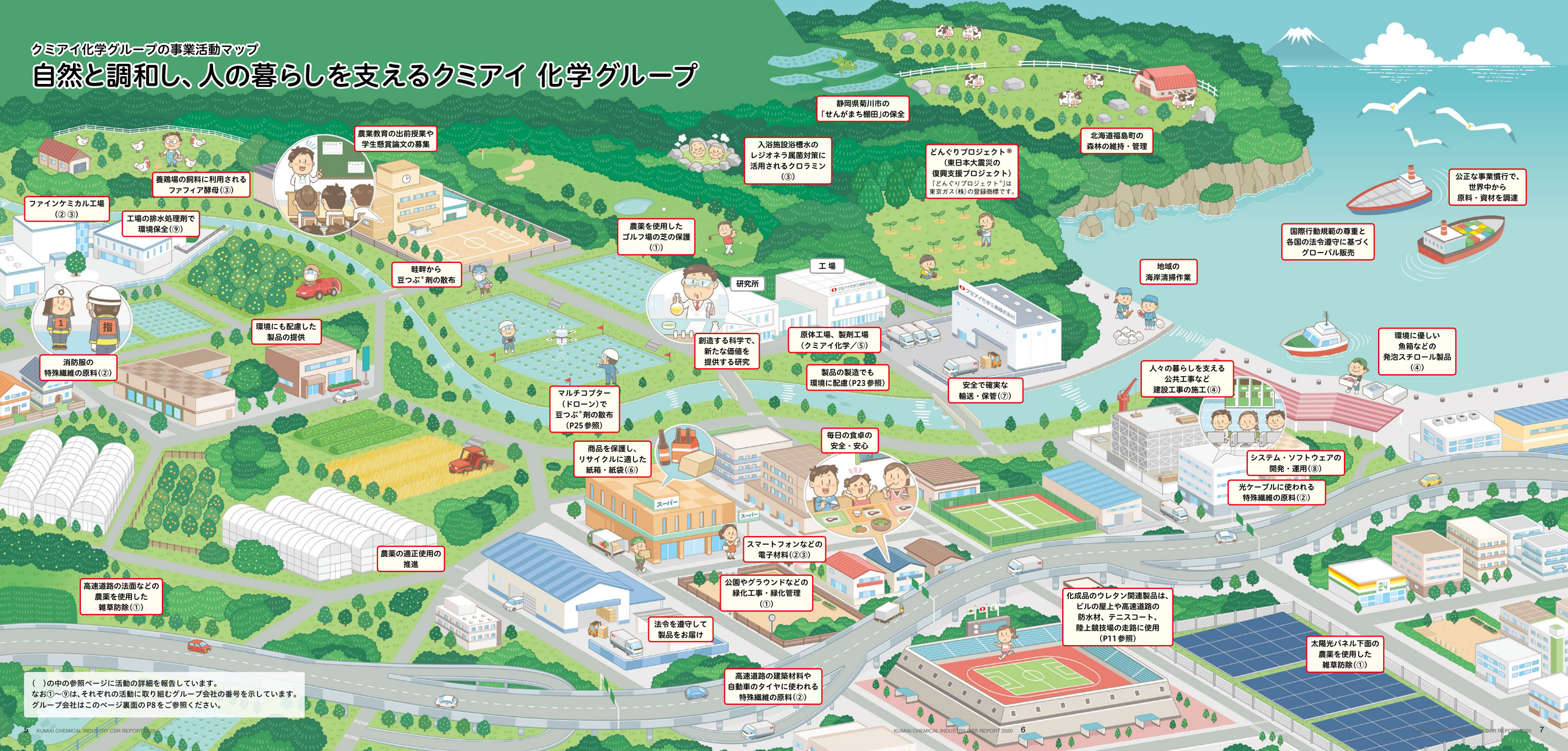
今後は、持続的な企業価値向上を目指す企業経営がますます重要になってくると考えています。私たちが基本とする理念の原点に立ち返り、コロナ禍のニューノーマルに求められるコーポレートガバナンス体制を整備していくことも大切です。事業活動による社会課題の解決という「攻めのCSR」とともに、従業員の雇用の維持や製品・サービスの安定供給、不正や不祥事の防止といった「守りのCSR」も重視する必要があります。従業員のコンプライアンス意識を高めるために2019年8月にオリジナルのコンプライアンス小冊子『規倫（キリン）読本』を制作し、グループ全社の役職員へ配付しました。今年度はリスク文化を深めるためにリスク管理小冊子『リスくんに学ぶ』を制作し、役職員へ配付しました。企業価値の尺度としてESGやSDGsが重視される中で従業員もそれに呼応した行動が求められています。啓発活動によりグループ全体の意識改革に取り組み、「守りのCSR」のさらなる強化に努めてまいります。

私たちのCSR活動について、ステークホルダーの皆さまの忌憚のないご意見やご指摘、私どもに期待される点を、ぜひお聞かせください。 今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

クミアイ化学工業株式会社
代表取締役社長
小池好智

クミアイ化学グループの事業活動マップ

自然と調和し、人の暮らしを支えるクミアイ 化学グループ



(　)の中の参照ページに活動の詳細を報告しています。
なお①～⑨は、それぞれの活動に取り組むグループ会社の番号を示しています。
グループ会社はこのページ裏面のP8をご参照ください。

クミアイ化学グループ　会社概要

①株式会社理研グリーン

【設立】1957（昭和32）年6月　【本社所在地】東京都台東区東上野4丁目8-1
【主な事業内容】当社は「緑化関連薬剤・資材事業」「産業用薬品事業」「土木緑化工事事業」の3事業を展開しています。緑化関連薬剤・資材事業ではゴルフ場、高速道路・鉄道等に除草剤、抑草剤、殺菌剤、殺虫剤、肥料などを販売しています。産業用薬品事業では製紙用化学品としてスライムコントロール、異物除去などの工程助剤や機能性添加剤などの薬品を販売しています。土木緑化工事事業では造園工事、公園整備工事、防災公園工事やスポーツ施設などの芝生の育成・維持管理を行っています。

②イハラニッケイ化学工業株式会社

【設立】1979（昭和54）年3月　【本社所在地】静岡県静岡市清水区蒲原5700番地の1
【主な事業内容】トルエンとキシレンの塩素化から誘導される化学製品を中心として、医農薬、染顔料、樹脂、繊維等の広範囲にわたるファインケミカル分野の原材料を供給することで社会に貢献してきました。「顧客に感謝され喜ばれる商品を供給する」「品質・価格・技術力で世界一を目指す」「創造的思考で新しい価値を生み出す」「顧客・株主・従業員さらに人間社会の幸福を追求する」を企業活動の規範に全社一丸となって邁進します。

③ケイ・アイ化成株式会社

【設立】1975（昭和50）年2月　【本社所在地】静岡県磐田市塩新田328番地
【主な事業内容】電子材料向けビスマレイミド類、有機シラン類ほか、農薬・医薬中間体などの各種有機中間製品の製造販売および研究開発を行う「化成品事業」、さまざまな産業分野で用いられる殺菌剤、防腐剤および、その技術を利用した環境衛生分野の抗菌剤、消毒剤（ウエットワイプ用除菌剤や温泉消毒剤）などの製造販売・研究開発を行う「産業薬品事業」、微生物の特徴を活かした安全性の高い医薬品原末、飼料添加物などの製造販売・研究開発を行う「バイオ製品事業」の3つの事業を展開しています。

④イハラ建成工業株式会社

【設立】1949（昭和24）年6月　【本社所在地】静岡県静岡市清水区長崎69番地の1
【主な事業内容】総合建設業においては、静岡県内を中心に公共民間を問わず建物の建築や土地の造成、道路の舗装や上下水道の敷設など、さまざまな工事を手がけています。また、発泡スチロール製造販売業においては、国内4カ所（静岡、千葉、福島、宮城）に製造拠点を設け、魚や野菜を入れる箱、家電製品の緩衝材や部材、建設工事で使用されるブロックなどの製品を製造し全国に販売しています。

⑤尾道クミカ工業株式会社

【設立】1972（昭和47）年10月　【本社所在地】広島県尾道市長者原二丁目160番地
【主な事業内容】農薬（粒剤、水和剤 等）を製造し、クミアイ化学工業のほか、国内農薬メーカー各社に供給しています。農薬原料の粉砕・混合および農薬製品の小分け包装、工業化学品（樹脂、樹脂添加剤、無機化合物、混合飼料など）の粉砕・混合・篩分け作業など、優れた技術をグループ内外のお客さまに提供しています。

⑥日本印刷工業株式会社

【設立】1943（昭和18）年11月　【本社所在地】静岡県静岡市駿河区中吉田14番35号
【主な事業内容】日本印刷工業は、1943年に創業し、親会社であるクミアイ化学工業の製品用の包装資材のほか、飲料、食料品、化粧品、工業品のパッケージ、一般印刷物など幅広い分野のパッケージ、包装資材、印刷物を提供しています。創業から77年、お客さまと強い信頼関係を築き、大切な商品を保護するパッケージの製造のみならず、印刷に係るノウハウに裏打ちされた、質の高い印刷物を供給しています。

⑦株式会社クミカ物流

【設立】1962（昭和37）年8月　【本社所在地】静岡県静岡市清水区渋川100番地
【主な事業内容】物流事業においては、引火性液体である第4類危険物をはじめとした特殊危険物や毒物劇物などを取り扱う特殊物流サービスの深耕に努め、特殊物流のノウハウと設備基盤、社員資格を最大限に活用し安心・安全な物流サービスを提供しています。産業廃棄物事業においては、環境関連事業の重要性を認識し、適切な産業廃棄物処理を推進するために、コンプライアンスを重視した産業廃棄物総合コンサルティング事業を展開しています。

⑧ケイアイ情報システム株式会社

【設立】1975（昭和50）年7月　【本社所在地】東京都台東区池之端1丁目4-26
【主な事業内容】クミアイ化学グループ各社からの受託データ処理、統合基幹業務システムの導入支援などの情報サービスを中心に、ソフトウェアの開発および販売、情報処理機器・事務用機器・理化学機器の販売などを手がけています。

⑨株式会社ネップ

【設立】1973（昭和48）年3月　【本社所在地】東京都台東区池之端1丁目4-26
【主な事業内容】東京都台東区の本社と、静岡県内に3カ所の営業所と東海工場を構えています。第一事業部（化成品製造・卸部門）は、一般工業薬品の小分け製造から自社配送までを行い、独自製品である重金属処理剤を販売しています。第二事業部（人材活用部門）は業務委託、専門技術者の派遣、環境整備や社員福利厚生事業、セキュリティ事業など、幅広く「技術」と「人」に関わる諸問題を解決するための事業を行っています。

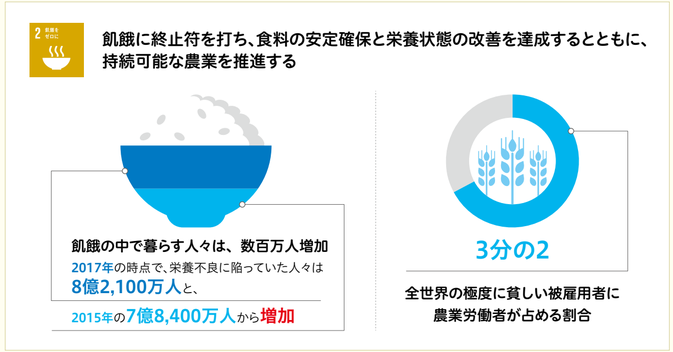
特 集1

除草作業の効率化が農村の貧困を救う

～「ノミニーゴールド」の普及 ～

国際連合広報センターのSDGs報告2019※によれば、2017年時点で飢餓によって栄養不良に陥った人々は世界で8億2,100万人に達し、そうした極度に貧しい被雇用者のうち農業労働者の占める割合は3分の2に達しています。クミアイ化学工業は、優れた性能の農薬を開発・供給することを通じて、これらの課題に取り組んできました。この特集では、水稲用除草剤「ノミニーゴールド」がインドの農村にもたらした変化を例に、農薬がどのような形で新興国の「貧困」と「飢餓」の改善に貢献しているかについてをご紹介します。

※出典 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/



※出典　国際連合広報センター

農薬が除草作業を効率化したことで農村の労働力が経済成長の原動力に

インドは世界で最も目覚ましい経済成長を続ける国の一つです。その成長を支える豊富な労働力は、農村が供給源となっています。工業や建設業を農村からの出稼ぎ労働者が支えるという構図は、1960～70年代の日本と同じであり、インドはまさしく今、高度成長期を迎えているのです。

農村が労働力を供給するためには、農業の省力化が前提になります。インド最大の農作物は水稲であり、水稲を育てるために最も労働力を必要とする農作業の一つが「除草」です。インドの水田では長い間「土壌処理剤」と呼ばれる除草剤を使用していました。これは、発生前から発生初期の小さな雑草しか防除できないため、稲の成長とともに生える後発の雑草は「人の手で取る」しかなく、農作業の大きな負担になっていました。

2009年に発売されたクミアイ化学工業の「ノミニーゴールド」は画期的な水稲用除草剤で、20㎝ぐらいに成長した雑草も防除することができます。ある程度の大きさに成長した雑草を枯らす「茎葉処理剤」としては、インドで初めて大々的に紹介された除草剤であることから、大きな反響を呼びました。それまで多くの人手を必要とした除草作業は「ノミニーゴールド」の散布をするだけでよくなり、農村の余剰労働力は工業分野へ流入して、インドの経済成長を押し上げる力になったのです。さらに、出稼ぎ労働者が得た現金収入は農村に流通して、貧困の改善に寄与しました。

インドで販売されている「ノミニーゴールド」

ノミニーの効果。手前は無処理で雑草がはびこっています

「ノミニーゴールド」普及活動（インド、チャティスガル州）

手取り除草の様子（インド、ケララ州）

現地に密着した付加価値の高いサービスで貧困脱却と食料の安定確保に貢献

インドでは中部のチャティスガル州、南部のアンドラプラデッシュ州、ケララ州などで水稲の直播栽培が行われてきました。日本の農家では田植え機の導入により省力化が一気に進みましたが、気候条件に恵まれている南アジアや東南アジアでは、より投資金額の少ない直播栽培が普及していったのです。しかし、直播栽培は田植えの労力を必要としない一方で、雑草防除の作業負荷が悩みの種となっていました。後から生えてくる雑草は何度も手で抜かなければならないため、田植えをした水田よりも労力を必要としていたのです。

後発雑草を一気に枯らすことができる「ノミニーゴールド」は高い選択性（稲には影響が小さく、雑草のみ枯らす性質）から、直播水稲に使用しやすい除草剤です。直播栽培はタイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、スリランカといったアジア諸国でも盛んに行われています。ノミニー剤はこれらの国々ではインドよりも一足早く1990年代の終わりに紹介され、「使いやすく効果の高い茎葉処理除草剤」として農作業の省力化と稲作の安定化に貢献してきました。

途上国の貧困脱却と食料の安定確保に貢献するためには、ただ製品を販売するだけでなく農家へ直接アプローチして、農作業の省力化と農産物の収量増加が実現することを理解していただく必要があります。ノミニー剤をはじめとする私たちの製品をより多くの国々へ広めるために重要なのは普及活動（商品の特長、利便性を理解していただく活動）と技術指導（圃場の整備、水田の水管理、商品の取り扱い方法、散布液の調製方法、散布方法と時期など）を継続していくことです。現在、中国製などの安価なジェネリック品が数多く流通しています。クミアイ化学工業は開発メーカーとして、さまざまな条件に応じた使用法の普及や、より便利な混合剤の開発など、一層高付加価値なサービスの提供によって、SDGs目標1「貧困をなくそう」および目標2「飢餓をゼロに」への貢献を続けていきます。

特 集 2

社会基盤を支える素材の原料を供給する

～ イハラニッケイ化学工業を主体とした化成品事業 ～

クミアイ化学グループの化成品事業は、自社開発農薬の製造に端を発し、国内唯一の塩素化技術を用いたクロロトルエン系・クロロキシレン系化学品事業を行うイハラニッケイ化学工業の設立により大きな発展を遂げてきました。この特集では、化成品事業の成り立ちとともに、イハラニッケイ化学工業を中心としたグループの化成品事業について紹介します。

農薬の主原料自製が化成品事業の起源

クミアイ化学工業の静岡工場（旧イハラケミカル工業）では、1966年にイネいもち病防除剤「キタジン®」原体、1970年に水稲用除草剤「サターン®」原体の製造を開始しました。

これらの製品の主原料であるクロロトルエン系化学品は、塩素化技術を用いて製造される化学品です。これら主原料を安定的に確保するため、当時の開発陣は効率的な製造方法の研究開発に取り組み、1973年に塩素化設備を建設して自社での製造を始めました。

そうした中で培われた塩素化技術は、自社農薬の主原料製造だけではなく、他社に向けた医農薬原料の製造販売へと展開し、化成品事業の立ち上げにつながりました。この展開を足掛かりに、新たな技術開発が行われ、シアノ化設備、フッ素化設備、医薬中間体製造設備と次々に新プラントを建設し、化成品事業を拡大してきたのです。

食料危機の回避に貢献し幅広い分野の産業に浸透

サターン®の販売は急速に拡大し、1974年には全国水田面積の50％で使用されるまでに成長していました。サターン®の主原料をはじめとするクロロトルエン系化学品の増産に対する強い要望に応えるべく、1979年3月にイハラケミカル工業、クミアイ化学工業、日本軽金属の3 社による合弁企業としてイハラニッケイ化学工業が設立されました。イハラニッケイ化学工業は隣接する日本軽金属から塩素の供給を受けながらクロロトルエン系化学品の製造技術を磨き、設備の充実を図りビジネスを発展させてきました。

やがて、2004年に世界規模でダイズのさび病が大発生し、大量の殺菌剤が必要となりました。この殺菌剤の原料としてイハラニッケイ化学工業のクロロトルエン系化学品が使用され、世界的な食料危機の回避に貢献したのです。

グローバルな社会課題に向き合い、その解決に大きな役割を果たしたことで、イハラニッケイ化学工業は次のステージへと踏み出しました。医農薬原料に使用されるパラクロロベンジルクロライド（PCBC）、パラクロロベンゾイルクロライド（PCOC）等のトルエン誘導体だけでなく、キシレン誘導体の製造にも注力したのです。その結果、新たに製造したクロロキシレン系化学品が顧客のニーズとマッチし、農薬以外のさまざまな分野で利用されて、現在では販売の主流を占めています。テレフタル酸クロライド（TPC）、イソフタル酸クロライド（IPC）、パラキシレンジクロライド（PXDC）等のクロロキシレン系化学品は、スマートフォン等の電子材料、消防服、自動車のタイヤ、光ファイバーケーブル等に使われる特殊繊維をはじめ、医農薬や高機能樹脂等の原料として幅広い産業分野で使用されています。

イハラニッケイ化学工業の本社工場

Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.

Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.（製品充填所）

ITインフラやモビリティの安全を支え循環型社会の実現に貢献する

イハラニッケイ化学工業は、今後も拡大が見込まれるクロロキシレン系化学品の需要に対応するため2016年11月、タイに子会社（Iharanikkei Chemical（Thailand）Co., Ltd.）を設立し、IPC製造プラントが竣工しました。2020年末にはTPC製造プラントが竣工する予定です。ここで製造されるIPC、TPCは主にアラミド繊維向けに使用され、光ファイバーケーブルの腐食を防ぐほか、タイヤの強度や耐久性を高めて摩耗を防ぐなど、優れた機能を発揮します。情報や交通のインフラに関わる製品の寿命を延ばすことは、エコ社会の実現につながります。イハラニッケイ化学工業は、このタイ子会社を基軸としてクロロキシレン系化学品の製造販売を拡大し、社会基盤となる素材の原料を供給するサプライヤーとして、その責任を果たしていきます。

クミアイ化学グループは、これからもイハラニッケイ化学工業を主体として、さまざまな化成品を市場や社会に提供していきます。化成品事業の拡大成長を実現するとともに、安全・安心なインフラ構築の一端を担い、人々の豊かで便利な暮らしを支えながら、環境負荷の低減により循環社会へ貢献することを目指します。

Group Synergies　クミアイ化学グループの化成品事業

グループのシナジーを活かしながら付加価値の高い技術や製品で社会に貢献

クミアイ化学グループは、化成品事業を農薬に次ぐ第二の柱として位置付け、拡大を図ってきました。グループ内には、クミアイ化学工業とイハラニッケイ化学工業に加えて、製紙用化学品を取り扱う産業用薬品事業の理研グリーン、国内トップクラスのシェアを誇る電子材料向け・高耐熱樹脂向けビスマレイミド類事業を行うケイ・アイ化成、発泡スチロールの特性を活かした製品事業を主とするイハラ建成工業、重金属除去剤などの環境保全関連製品を取り扱うネップ が化成品事業を展開しています。

各社はグループのシナジーを活かして、優れた技術と高品質な製品の開発により、さまざまな価値を社会にもたらしてきました。それぞれが展開する化成品事業が、どのような形で持続可能な社会に貢献しているかについて、以下に記載します。

●クミアイ化学工業

クミアイ化学工業は長年培ってきた農薬原体の製造技術を軸に医農薬中間体、樹脂原料、電子材料など幅広い分野においてファインケミカルの製造・販売を行っています。代表的なものがウレタン樹脂・エポキシ樹脂を固める際に欠かせないアミン硬化剤で、1964年から製造・販売しています。独自の開発技術により耐熱・耐摩耗性に優れた製品や、環境対応型製品など、時代のニーズに応えた付加価値の高いアミン硬化剤を提供してきました。

●理研グリーン

環境関連事業を多角的に展開している理研グリーンは「グリーン・ケミストリー」というモットーを掲げ、環境負荷を極限まで排除する製紙工程の開発や化学品の選定に注力しています。生産からリサイクルまでを見据えた、環境と調和する製紙技術の確立が目標です。

●ケイ・アイ化成

イハラニッケイ化学工業が製造するクロロキシレン系化学品と並んでグループの化成品事業を牽引しているのは、ケイ・アイ化成のビスマレイミド類です。ケイ・アイ化成は航空機や半導体製造などの先端産業の需要が高まったことに応えて、2015年に合成設備（マルチプラント）を新設しました。独自に開発した耐熱高分子原料や受託合成事業が市場から高い評価を得ています。

●イハラ建成工業

イハラ建成工業の発泡スチロールは建設業から農水産物の箱や梱包材、園芸用品など生活に密着した製品まで、幅広い製品を提供しています。発泡スチロールは製品全体の98％が空気であることから、もともと環境負荷の少ない製品です。しかし、海洋プラスチックをはじめとする環境問題を踏まえて、「環境に優しい素材で暮らしを包み込む」というコンセプトのもと、生分解性素材の開発など発泡スチロールの新しい可能性を追求しています。

●ネップ

ネップ（NEP：Nippon Environmental Protection）は商号でも示しているように「環境保全の会社」として「エコアクション21」を取得。地球環境の保全および食の安全・安心を重要課題と捉え、重金属除去剤をはじめとする環境保全関連製品の販売などを行っています。

マテリアリティ（重要課題）の特定プロセス

クミアイ化学グループは、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、事業活動を通じてあらゆるステークホルダーの皆さまとの信頼関係を構築し、CSR基本方針に則ってさまざまな社会課題の解決に貢献すべく努力を重ねてまいりました。
こうした取り組みの意義をグループ全体で共有し、事業活動とSDGsをはじめとする社会課題の関係を明確にすべく、2020年5月に「企業としての発展・成長」と「持続可能な社会」の実現を目的とした12項目のマテリアリティを特定しました。

●マテリアリティ・マトリックス

非常に重要

ステークホルダーにとっての重要度

	•働きがいと人材の育成・活用 •労働安全衛生 •環境安全（ISO14001）と エネルギー・資源の使用量の削減	•農業イノベーション型製品の創出 •コンプライアンスの実現 •サプライチェーン •品質管理（ISO9001）と 製品安全・消費者安全
•地域コミュニケーション •ダイバーシティ		•IRコミュニケーション •リスクマネジメントの推進
		•顧客コミュニケーション

重要 → 非常に重要

当社グループにとっての重要度

特定した当社グループのマテリアリティ（重要課題）の中で特に重要と思われる課題と、その主な取り組み、および目標指標は下表の通りです。

●マテリアリティの取り組み

課　題	当社グループの主な取り組み	目標指標
農業イノベーション型製品の創出	省力化製剤の豆つぶ®剤の普及と拡販、スマート農業への適用を図る	スマート農業と連動した豆つぶ®剤の使用面積の拡大（担い手（法人））
コンプライアンスの実現	コンプライアンス意識調査、コンプライアンス小冊子の制作と配付、内部通報制度の適正な運用	コンプライアンス意識調査における総合評価の継続的な向上
サプライチェーン	環境や社会に配慮した安定調達、安定供給	CSR調達の継続的な推進
品質管理（ISO9001）と製品安全・消費者安全	ISO9001の適正運用（取得会社）、製品の改良と性能向上、安定した品質による顧客満足の向上	クレーム件数の継続的な削減
働きがいと人材の育成・活用	ワークライフバランスの推進、ハラスメント対策、研修・表彰制度、従業員の健康維持向上、従業員幸福度調査	従業員幸福度調査における総合満足度の継続的な向上
労働安全衛生	安全衛生管理体制の整備、健康保険組合の健康支援活動	労働災害の発生ゼロ
環境安全（ISO14001）とエネルギー・資源の使用量の削減	ISO14001の適正運用（取得会社）、エネルギー使用量やPRTR第一種指定化学物質の排出・移動量の削減	エネルギー使用量の5年間の平均原単位の1％削減の継続達成
IRコミュニケーション	機関投資家向け決算説明会の開催（年2回）、事業所見学会の開催、個別IR面談、株主通信「クミカLetter」の発行（年2回）、第三者機関による企業レポートの発行	IRイベントの継続的な開催、対話機会の拡充、企業レポート・株主通信の継続的な発行
リスクマネジメントの推進	事業等のリスクの管理、リスク情報の集約と水平展開、リスク管理小冊子の制作と配付	リスク文化の醸成と浸透を図るためのリスク教育の充実

なお化成品事業は、最終製品ではなく中間素材の原料製造が中心であることから、社会貢献の解決という切り口での特定が現段階では難しいと判断し除外しました。今後検討を重ねてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、サプライチェーンの重要性を改めて認識したことから「マテリアリティ・マトリックス」における重要度を最終的に高めました。コロナ禍、あるいはアフターコロナのニューノーマルにおいてもCSR調達の継続的な推進は重要な課題と考えています。

クミアイ化学グループ企業基本理念とCSR基本方針

クミアイ化学グループは、グループの全役職員が実践すべき、クミアイ化学グループ企業基本理念とCSR基本方針を明示しています。また、製品・サービスを通じて社会へ新しい価値を創造するための攻めのCSRと、社会要請に応えるために企業として果たすべき義務と責任を全うする守りのCSRを明確にするとともに、グループの事業とSDGsとの関連性について整理した全体像を、SDGs活動概念として共有しています。

クミアイ化学グループ企業基本理念とCSR基本方針

組織統治

Corporate Governance

クミアイ化学グループは、お客さまや株主さまをはじめとするステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えるため、コーポレートガバナンス（企業統治）体制の強化・徹底による経営の透明性・健全性の向上に取り組んでいます。誠実な経営体制の構築と公正かつ迅速な意思決定により、グループ全体の持続的な企業価値の向上を図ることが目的です。

長期的な戦略立案を担う経営戦略室を新設

クミアイ化学工業は、2020年3月に経営戦略室を新設しました。これは、今まで経営企画部が担ってきた業務のうち長期的な戦略に関わる業務を担当する社長直轄の組織です。具体的な業務としては、長期的なグループ戦略や事業戦略のシナリオを策定し、会社が進むべき方向性の立案や、事業ポートフォリオの拡充を目的とした新領域における事業確立などに取り組んでいきます。また、M&Aおよび事業提携などの案件についても取り扱います。

経営戦略室は室長を含む2名体制でスタートし、会社全体の経営業務、経理・財務業務ならびにグループ事業を統括する経営企画部と連携・協力しながら業務を推進していきます。より長期的な視点に立った事業戦略の策定、新領域事業の確立などを通じて、クミアイ化学工業およびグループの企業価値向上を実現し、事業のさらなる成長と社会の持続的な発展に貢献することが目的です。

新型コロナウイルス感染防止に対応したクミアイ化学グループの施策について

新型コロナウイルスの感染を防止するべく、クミアイ化学工業は2020年2月19日にパンデミック対策本部を設置し、刻々と変わりゆく状況に応じた対応方針を決定し、本格的な取り組みを開始、継続しています。基本的な対策は以下の通りです。

1）在宅勤務・サテライト勤務推奨
2）時差出勤
3）有給休暇取得促進
4）都道府県をまたいだ移動自粛
5）海外出張自粛
6）面談、会食自粛
7）不要不急の対面式会議自粛、Web会議推奨
8）感染防止策徹底（身体的距離確保、マスク着用、手洗い）

続いて、具体的な対応を以下に列挙します。

- 毎朝全従業員の健康状態を確認し、本部内で情報を共有
- グループ各社へ対策本部による取り組み内容について水平展開
- ホームページに当社の取り組み内容に関する情報を開示
- マスク・消毒液の備蓄一元管理と不足部署の従業員へ配布
- 海外駐在員への出国自粛要請
- 取引先等で罹患者が発生した場合の対応方法を文書発信
- 感染拡大予防徹底（日常生活・会議）の依頼文書発信
- BCP対応（業務場所の分離分割等）
- 緊急事態宣言発動時の対応について文書発信
- 役職員に感染者が発生した場合の対応について文書発信
- 発熱者の職場復帰の目安について文書発信
- 本社ビルの新型コロナウイルス対策強化（各階に除菌フィルター付きの高度清浄加湿装置を設置、デスク周りの消毒（2回/日）、入館時サーモカメラでの体温測定徹底、健康質問票の活用、パーテーションの設置）
- 全事業所においてトイレのエアータオル使用禁止
- 従業員への感染拡大防止策の徹底の要請を文書発信（家族以外の大人数の会食禁止、３密発生の恐れがあるイベント等の参加禁止など）

また、ケイアイ情報システムは、クミアイ化学グループのサーバーなどの運用管理を担うことから、システム管理要員が会社から20分圏内に転居し、緊急時へ備えました。

政策保有株式に関する基本方針

当社は、政策保有株式の段階的な縮減を基本方針とします。個別銘柄毎に保有の合理性を精査し、保有の適否を毎年取締役会で検証します。

また、保有意義については、当社事業におけるシナジー効果および配当金・関連取引収益などリターンとリスクを踏まえた中長期的な経済合理性に加えて、投資先との取引関係の維持・強化や共同事業の推進等、保有目的に沿っているかも確認します。

上記検証により、合理性が認められる銘柄は保有を継続し、認められない銘柄は売却を検討します。議決権の行使については、次のスクリーニング基準を設け、該当した銘柄は議案内容を精査の上、賛否を決定します。

（スクリーニング基準）
1）株価の大幅な下落
2）業績の著しい悪化
3）法令違反や反社会的行為
4）その他当社もしくは投資先企業の企業価値を著しく毀損する可能性がある場合等

業務の適正化と経営の透明性を高める体制

クミアイ化学工業は、「業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）に関する基本方針」を定めています。基本方針の決議義務は、継続的な義務であり、不断の見直しが必要であると考えられることから、クミアイ化学工業では年１回以上の見直しを実施しています。2020年6月に内部の環境および法令改正などの外部の環境の変化、ならびに監査役の監査報告書などを勘案して内容を見直した結果、この時点では変更なしとしました。

この基本方針に基づいて、内部統制システムを適正に運用するための具体的な業務プロセスに沿った「水準」を示す「内部統制システム運用管理規則」を定め、適正な運用を図っています。

また、主要なグループ会社に対して「グループ企業の内部統制システムの整備・運用のためのガイドライン」を設け、会社の規模に関わらず各社が「業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）に関する基本方針」を定めています。

さらに、クミアイ化学工業は、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を定めています。この基本方針に基づいて、組織の業務全体に係る財務報告の信頼性を確保するために、財務報告に係る内部統制の適正な整備・運用に取り組んでいます。

Voice

Withコロナにおいてもコーポレートガバナンスのさらなる強化を推進していきます。

クミアイ化学工業　専務取締役（コーポレートガバナンス統括室担当）　高木 誠

当社は、グループを挙げてコーポレートガバナンス体制の強化に取り組んでおります。トップメッセージ、各種会議等を通じてクミアイ化学グループ企業基本理念/行動指針の浸透に加え、経営戦略ならびに中期および単年度経営方針を共有し、グループ全体の企業価値の向上を図っております。加えて、全役職員に企業人としての心得を浸透させるための規則と倫理を分かりやすく解説した『規倫読本』を配付してさまざまな機会に活用しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大していますが、その中でも農業者および化学業界の顧客に安定して商品をお届けすることこそが社会貢献であると考えます。従業員の安全・安心を確保した上で、在宅勤務、時差出勤、Web会議など従来とは異なる制約下でもコーポレートガバナンスの機能を損なうことなく、効率的な事業運営が進むように運用面で適確な対応と工夫を続けています。これからは、withコロナを前提に、持続可能な新たな働き方を推進し、従業員の幸福度の向上を図りながら、ニューノーマルに求められるコーポレートガバナンス体制の確立を進めていきます。

人権と労働慣行

Human Rights and Labor Practices

クミアイ化学工業は、あらゆる企業活動に際して基本的人権の尊重を最優先に考え、雇用や人材の活用において多様性の重視を徹底しています。さらに、ダイバーシティの推進や社内のコミュニケーションを促進することにより、従業員一人ひとりが働きやすい環境整備に努めています。

人権の尊重

クミアイ化学工業は、企業活動において出生、国籍、人種、民族、信条、宗教、性別、年齢、心身の障がいや性的マイノリティなどを理由とした差別を行わず、基本的な人権を尊重することを行動規範に掲げています。

海外で展開する事業においても、世界各地のさまざまな文化や慣習を尊重すると同時に、当社の事業活動を通して現地の発展に貢献すべく努力しています。また、児童労働・強制労働などの人権侵害に加担することなく、これらの排除・廃絶に向けた国際的な取り組みを支持し、すべての人々の人権が守られる社会の実現を目指します。

私たちは、企業市民として社会への責任を果たし、より深い信頼を得るために、国際行動規範の尊重などISO26000（社会的責任に関する手引）の視点を踏まえたグローバルな社会的責任の理解と実行のために、従業員の啓発と教育に努め、意識向上を図っています。

ダイバーシティの推進

クミアイ化学工業は、多様な人材が生き生きと働き、能力を最大限に発揮できる組織風土の醸成や各種制度の整備を通じて、ダイバーシティの推進に積極的に取り組んでいます。

当社の人事施策の策定・運用に当たっては、女性の活躍推進、高齢者および外国人の雇用に注力し、一定の成果を上げてきました。多様性を尊重する職場環境は一般社員の働きやすさにもつながり、新卒入社３年以内の離職者数はゼロに近い水準で推移しています。

障がい者の雇用においても、職業能力の向上と働きがいを提供する環境づくりに努め、一時的に障がい者雇用率が低下した時期もありましたが、現在は、障害者雇用促進法に定められた法定雇用率を維持しています。

●新卒採用者定着状況（３年目までの離職者数）

入社年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
入社人数	21 人	23 人	31 人	36 人	32 人
3年目離職者	0 人	2 人	0 人	1 人	2 人
離職率	0.0%	8.7%	0.0%	2.8%	6.3%

●障がい者雇用率の推移

	2016年6月	2017年6月	2018年6月	2019年6月	2020年6月
障がい者雇用率	2.1%	1.4%	2.5%	2.8%	2.7%
法定雇用率	2.0%	2.0%	2.2%	2.2%	2.2%

同一労働同一賃金に関わる諸規程の改定

クミアイ化学工業は、2020年４月１日の「パートタイム・有期雇用労働法」施行を受け、正社員と非正規雇用労働者との間の待遇差を精査し、不合理な待遇差が生じないよう規則類の改定を行いました。また、グループウェア内に同一労働同一賃金に関する問い合わせ専用窓口を設置し、待遇の違いやその理由について説明を受けられる体制を確立しました。

1dayインターンシップの取り組み

クミアイ化学工業は、来年卒業予定の学生を対象に、外部から見えにくい農薬メーカーの業務を体験してもらい、就職活動の参考とするとともに、当社の企業活動についての理解を深めてもらう1dayインターンシップを実施しました。業務内容として「営業」、「研究」の２種類を用意して、「営業」は本社、「研究」は静岡県菊川市の生物科学研究所農薬研究センターで実施しました。

一般的にあまり良くないイメージを持たれることが多い農薬ですが、当社の若手社員とともに企業活動の現場を体験することにより、その必要性や普及の実態を正しく理解できたという声が参加者から寄せられました。

自己啓発のため通信教育を援助

クミアイ化学工業は、従業員の自己啓発の一助として40年以上にわたって通信教育制度を続けています。マネジメントや対話力などビジネスに欠かせないスキルの向上をはじめ、実務に活かせるパソコン、語学、資格取得など200以上の講座から選択して受講可能です。

受講料の負担は、会社50％個人50％になります。近年は、テーマに関連するさまざまなジャンルから選定した５講座程度について受講料の70％を会社が負担するような仕組みも設けて、通信教育制度の利用推進に注力しています。

また、グループ会社であるネップも、クミアイ化学工業の通信教育制度を活用しています。

従業員と家族の交流を深める収穫祭

クミアイ化学工業の生物科学研究所では、従業員間の親和を図る目的で毎年収穫祭を実施しています。2019年12月14日に行われた収穫祭は好天に恵まれ、大勢の従業員およびその家族が温州みかん、ハクサイ、ダイコン、カブ、ネギ、キウイフルーツを収穫しました。

普段は静かな生物科学研究所の掛川農場に子どもたちの元気な声が響き渡り、豊かな緑と調和した和やかな雰囲気の中、従業員間の交流を深めることができました。また、その場で自分たちの手で採った新鮮な野菜を料理し、そのおいしさを味わうことは、作物の恵みに対する感謝の気持ちにつながります。今後も、従業員および家族の思い出に残る行事を通じて、より一層の親睦を深め、明日への活力を養えるように努めます。

ライフスタイルの変化に合わせて ワークライフバランスを最適化

クミアイ化学工業は、従業員一人ひとりがライフステージやライフイベントに応じてワークスタイルを選択し、能力を最大限に発揮できる職場づくりを目指して、育児休業制度のほか各種制度や環境整備を進めています。

従業員の働きやすさとワークライフバランスを促す施策として時間短縮勤務を導入しました。さらに今年度は、時差出勤制度を導入しました。本制度は、新型コロナウイルス感染症拡大抑制の観点から急遽導入した制度でしたが、本来の目的である通勤時の感染リスクの低減だけでなく、満員電車での通勤回避から、精神的にも肉体的にも大幅なストレス低減となることや、朝の多忙な時間に余裕ができ、子どもの送迎などプライベートの満足度を向上させる効果が認められるなど、ワークライフバランスを保つ上で重要なメリットが得られています。時差出勤の時間枠は狭い方が労働時間の管理をしやすいのですが、本制度の利便性を優先し、朝7時半から10時まで30分毎の広い枠で時差出勤を利用できるようになっています。こうした制度整備によって業務の効率化を図り、生産性を高め、健康と福祉、働きがいの向上を図っています。

Voice

個性を活かし、能力を最大限に発揮できる環境整備に取り組んでいます。

クミアイ化学工業　経営管理本部総務人事部人財開発課長　三角 裕治

企業は、役割の異なる組織で構成され、その組織をいかに効率的に動かすかは、従業員の能力にかかっています。従業員一人ひとりの能力開発を効果的に進めるため、OJT、階層別、職種別等の教育を通して、能力の最大化を図っています。また、個性を尊重し、幅広い視野を養うべく、適正な人事配置とジョブローテーションを行い、人材の育成に努めています。さらには退職後の展望も含めた教育プログラムから、生涯にわたって多様なワークライフバランスを実現する環境整備にも取り組んでまいります。

公正な事業慣行

Fair Operating Practices

クミアイ化学グループは、法令や社会規範の遵守を徹底し、公正・誠実な事業活動に取り組んでいます。従業員一人ひとりが倫理的価値観を共有し、お客さまの信頼と期待に応えることへの誇りと責任のもとに、お取引先の地位や権利を尊重して公正かつ健全な関係性の維持に努めています。

クミアイ化学工業の行動規範

クミアイ化学工業は、役員および従業員の反道徳的な行動やマナー違反などにより企業の信用、ブランド価値、企業イメージが傷つき、著しく低下するようなリスクを防ぐために、「クミアイ化学行動規範」を定めてコンプライアンス基盤の強化に努めています。

企業倫理にとどまらず、国際行動規範の尊重などISO26000（社会的責任に関する手引）の視点を踏まえたグローバルな倫理的価値観と責任を理解し、関係するすべてのステークホルダーからの信頼と期待に応えられるよう取り組んでおり、行動規範に則る行動を実現するために、法令、社内規程、各種ガイドラインなどに基づき、守るべき事項をまとめた「行動基準」と、行動基準の理解を助けるために、Q＆A形式で細かな要点をまとめた「行動基準Q＆A」を定めています。加えて、役員および従業員として良識ある行動を取るために、守るべきこと、守ることが望ましいことを具体的にまとめた「倫理基準」を定めています。

独占禁止法・下請法への対応

クミアイ化学工業は、安全で高品質な製品とサービスの提供を喜びとし、誠意を持って公正な販売・購買活動と適切な広報活動を行うことにより、お客さまおよびお取引先とのTotal Winな関係性の構築を目指しています。

お取引先の地位や権利を尊重し、良識の範囲を超えた過剰な接待・贈答を禁じ、関連法令や公正な商習慣に従って健全な関係を維持します。

国内での販売・購買活動では、カルテルや談合などの不当な取引制限、私的独占の禁止、優越的地位の濫用などの不公正な取引方法の禁止、事業者団体の活動規制、企業結合の規制等、独占禁止法・下請法の遵守を重視しております。海外でも競争法遵守を意識した公正な販売・購買活動を行っています。

事業活動に関わるサプライチェーンの構築においては、前出の独占禁止法・下請法・競争法遵守はもとより、CSRの推進や国際行動規範の尊重に配慮した適切な事業活動を行うべく、グループ全社に徹底しています。

リスク管理体制

クミアイ化学工業は、平時のリスク対応としては、「リスク管理規則」に基づき、コーポレートガバナンス統括室がリスク管理を統括・推進しています。さらに、「リスク対策委員会」で全社的または組織横断的なリスクおよび部署別リスクの洗い出しと対応策を取りまとめるとともに、各部署のリスク情報を集約して、共有化を図っております。

重大なリスクの発生など有事の対応については、経営リスク管理規程に基づき、リスク対策本部を設置し、対策の決定や対外的な対応を行う体制になっています。

新型コロナウイルス感染症対応としては、パンデミック対応BCPに則りパンデミック対策本部を設置し、具体的な対応をグループ会社へ水平展開しています。

リスク・コンプライアンス教育

クミアイ化学グループは、コンプライアンスに対するステークホルダーからの要求が多様化・高度化する中、従業員の社会規範から逸脱する言動が企業の社会的信頼の失墜につながることから、コンプライアンスに基盤を置いた企業文化の醸成が大切であると考えています。そのため、定期的にコンプライアンス意識調査を行い、認識・浸透の度合いについて評価した結果を、教育計画に活かしています。2020年度もクミアイ化学グループでコンプライアンス意識調査を実施しました。

また、コンプライアンスについて周知徹底を図るために、コーポレートガバナンス統括室からチラシやメールマガジンをクミアイ化学グループ各社へ毎月発信しており、啓発・浸透に大きな成果を上げています。この情報発信の中で、コロナハラスメント防止のための啓発も実施しました。

さらに、クミアイ化学グループの役職員に求められるコンプライアンスのレベルや倫理観を理解してもらい、コンプライアンス意識を根付かせるために、2019年度にオリジナルのコンプライアンス小冊子『規倫読本』を制作してクミアイ化学グループの全役職員へ配付しました。2020年度はコロナ禍で集合研修が実施できないため、この小冊子を活用して各部署で啓発活動を続けています。新入社員のコンプライアンス研修においても、この小冊子を使用してオンライン研修を実施しました。

一連の活動によってクミアイ化学グループの役職員に高いコンプライアンス意識が浸透して、会社に対する信頼性と持続的な企業価値の向上につながることを期待しています。

このコンプライアンス小冊子に続いて、2020年度は、クミアイ化学グループのリスク文化の醸成と浸透を図るために、イラストなどを盛り込んでリスク管理を分かりやすく解説するオリジナル小冊子『リスくんに学ぶ』を制作してクミアイ化学グループの全役職員へ配付しました。これからは、コンプライアンス教育と併せてリスク教育も強化していきます。

ネップのエコアクション21の認証登録

ネップは2005年からエコアクション21への取り組みを実践しています。エコアクション21とは、環境省が策定した環境マネジメントシステム（EMS）で、環境経営を通じてより進化した組織への成長を目指す中小事業者を支援する仕組みです。

ネップが環境経営方針を掲げてエコアクション21を実践する目的は、従業員の能力・経験・意欲の向上を促し、高い価値を有した事業者として、社会やコミュニティから厚い信頼を得ることにあります。そのためPDCAサイクルで経営戦略の中に環境への取り組みを位置付け、事業活動における課題とチャンスを踏まえた環境経営を行っています。

エコアクション21への取り組みにより環境経営が広く浸透することで、社会全体の課題である環境負荷の低減にも貢献できます。2020年3月の更新審査にも適合しました。

Voice

リスク管理は内部統制の要であると認識することが大切です。

クミアイ化学工業 コーポレートガバナンス統括室長　三浦 一郎

コーポレートガバナンス統括室では、各部署が抽出したリスクの対応策、進捗、課題について、各部署にヒアリングを行いながらPDCAサイクルを回すことをサポートしています。

リスク管理は内部統制の要であり、適切なリスク管理が重要であるという共通認識を持つためには、リスク文化の醸成と浸透が大切であると考えています。クミアイ化学グループオリジナルのリスク管理小冊子がリスク感度を磨いて、リスク文化を深める原動力になることを期待しています。

安全衛生

Occupational Safety and Health

クミアイ化学グループは、従業員の健康づくりの支援などさまざまな安全衛生活動に取り組んでいます。また、農薬や化成品を製造する化学メーカーとして、工場における万一の事故や、大規模な自然災害の発生に際して、従業員の安全・安心を守り、周辺地域に影響を及ぼさないように、安全教育と防災訓練による安全活動を推進しています。工場の安全診断を社外に委託するほか、地元消防団への協力など地域社会との連携により事故・災害への備えを徹底しています。

従業員および家族の健康づくりを支援する取り組み

クミアイ化学グループの従業員および被扶養者が加入している報徳同栄健康保険組合では、各種検診の費用補助事業をはじめ、さまざまな事業を実施して健康づくりを支援しています。

人間ドック・脳ドックについては、一定条件を満たした加入者への特別事業補助により、受診を奨励しています。胃がん、子宮がん、乳がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、ウイルス性肝炎およびインフルエンザ予防接種についても、一定条件を満たした加入者への費用助成事業により検診を奨励しています。

また、成人病予防を目的として実施している「健康づくり運動」は、自分の体力にあった運動（種目は問わない）を当組合に届け出た上で、継続的に運動を行い、加入者の体力のレベルアップを図るものです。このような取り組みにより、加入者が自分の体力に合った運動を継続維持できる環境の整備に努めています。2019年度は表彰基準達成者41名と努力賞受賞者19名に記念品を贈呈しました。

一方、2008年度の法改正でメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）を主眼とした特定健診が始まり、40歳～74歳の加入者が受診対象になりました。従業員は会社の定期健康診断で受診し、被扶養者には当組合から案内文書と無料受診券を送付しています。日本人の死因は約6割が生活習慣病で、その半分はメタボリックシンドローム関連疾患です。当組合では健康づくりのために、特定健診による健康状態のチェックを推奨しています。

2019年度は一定条件を満たした健康者167名（被保険者の7%）に記念品を贈呈しました。中でも5年連続で保険給付のなかった方3名を特別表彰、家族共に1年間保険給付のなかった3名を家族表彰しています。

未来に向けた会社の健康経営には従業員とその家族の健康づくりが重要な役目を担っています。当組合では加入者の皆さまに毎日の生活習慣を見直していただき、定期的な健康診断と健康づくり運動を通じて健康的な毎日が過ごせるように支援の取り組みを継続したいと思っています。

●定期健康診断の受診率（クミアイ化学工業）

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
100%	100%	100%	100%	100%

2020年度の定期健康診断は、新型コロナウイルス感染防止対策（マスク着用徹底、同時検査・測定人数制限、待機場所の間隔確保）を講じながら実施しました。

静岡工場における取り組み

▼ 保安・安全活動

クミアイ化学工業の静岡工場では、従業員への安全教育として年1回「安全大会」を行い、安全に関する講演や設備説明会を実施しています。また、プラント対抗の失敗語録やＫＹＴ（危険予知訓練）イラストシートを作成するなど趣向を凝らしたプログラムも取り入れています。「安全大会」で寄せられた現場の意見をもとに、今後の対策などについて検討する安全操業会議を毎月運営しています。このほか、製造に関わるリスクアセスメント、使用する化学物質の危険性、万一の時の対応などを周知徹底する目的で、製造開始前に行う生産前教育も実践しています。

工場における安全診断として外部のコンサルタントに委託し、内部の従業員には気づきにくいリスクの抽出を行っています。これによりレベルの高い改善につながった事案もあり、ほかの工場でも導入を始めています。

さらに、各プラントに「ヒヤリハットノート」を設置し、担当者が気づいた小さなリスクを現場報告として漏らさず収集する取り組みを実行中です。報告には作業長、課長、工場長がコメントを付けてフィードバックすることで、現場の共有と報告意欲の喚起につながっています。

▼ 防災と労働安全衛生

クミアイ化学工業の静岡工場における防災活動として、月1回の自衛防災隊各係別の基礎訓練とともに年3回の総合防災訓練（危険物火災・漏洩事故、地震）を実施しています。ここ数年来、危険物火災防災訓練の際には富士市西消防署の参加・協力のもとに実践的な指導を受けています。また、富士市防火協会に加盟し、操法大会や出初式などの行事参加を通じて協力関係を深めています。

従業員の労働安全衛生にも力を入れており、安全衛生年間計画のもとに月例の教育を各部署で実施し、健康の維持と増進を図っています。

小牛田工場、龍野工場における取り組み

クミアイ化学工業の小牛田工場と龍野工場では、毎年総合防災訓練を実施しています。この訓練では、地震、火災、漏洩事故、負傷者の発生を想定し、消火班による消火活動や応急救護班による負傷者への応急処置や搬送訓練などを行っています。

近年、日本各地で地震や豪雨などの自然災害が増えています。こうした災害は自分たちの職場でも起こり得るという意識を持って、一人ひとりが真剣に訓練に取り組んでいます。また、漏洩事故は起こさないことが一番の防災ですが、万が一起こった場合、適切に対処できるようにさまざまな状況を想定して訓練に当たっています。訓練を行うことで、実際に災害や事故に遭った時に従業員や設備への被害を最小限に抑えるのはもちろんのこと、地域住民の皆さまをはじめとするステークホルダーの心身の健康を守ることにもつながっていると考えています。

クミアイ化学工業の従業員に対する新型コロナウイルス感染防止対策

クミアイ化学工業では、新型コロナウイルス感染が企業活動に及ぼす影響が極めて大きいことから以下に示す人事施策を実施し、従業員の感染防止対策を支援しました。

①時差出勤制度の拡大
②別居手当（旅費部分）の追加支給
③在宅勤務の拡充
④個人単位の休日振替
⑤短時間勤務
⑥静岡工場２直者への半休適用
⑦サテライトオフィス勤務（静岡工場・生物科学研究所）
⑧公共交通機関での通勤を避ける対応
（ホテルからの出勤・車両通勤など）
⑨半日有給休暇の取得限度日数の拡大
⑩特別休暇（有給）の取得（最大３日）

Voice

ポストコロナに向けた新型コロナウイルス感染症に係るパンデミック対策。

クミアイ化学工業　経営管理本部総務人事部次長兼人事課長
（パンデミック対策本部事務局）　志田 智則

新型コロナウイルス感染症は、対策を一気に緩めれば感染が再燃し、医療崩壊・重症者増大の恐れがあることから、早期診断および治療法の確立により重症化予防の目途が立つか、効果的なワクチンができるまで、蔓延防止を第一としつつ、社会経済活動との両立を図っていく必要があります。

当社としては、引き続き感染防止対応の徹底に加え、このたびの一連の経験を十分に活かすことで、新しい生活様式へ適応しつつ、働きやすく働きがいのある会社を目指して、ワークライフバランスの実現による多様な働き方を志向してまいります。

環　境

Environmental Activities

クミアイ化学工業は、農薬メーカーとして市場ニーズに即した安全・信頼性の高い農薬の製造に全力を傾けています。また、“環境に優しい”農薬の開発に努めるほか、山林や棚田の保全、環境マネジメントシステムに基づいた生産活動の中で、工場が適切な環境保全管理を実施するなどの幅広い環境活動に取り組んでいます。

環境方針に基づく取り組み

クミアイ化学工業は、環境マネジメントシステムを確立・実行し、継続的改善により環境負荷を軽減するという方針のもと、従業員一丸となって地球環境の保全に取り組んでいます。

農薬の原体・製剤の生産を業務としている当社は、生産に関わるすべての業務活動の中で、環境への影響が大きいと考えられる以下の項目について継続的な改善を図ることにより、積極的に環境汚染の予防に努めています。

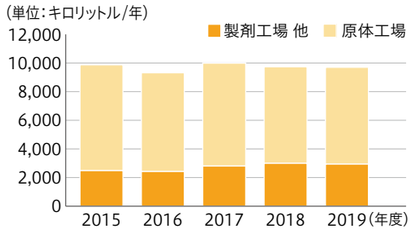
①省資源・エネルギーの推進
②３Ｒ（Reduce、Reuse、Recycle）の推進
③産業廃棄物の削減・適正処理

さらに、環境に関連する法規およびその他の要求事項を遵守するとともに、レベルの高い自主基準を設けて、エネルギー使用量やCO_2排出量の維持と改善に注力しています。

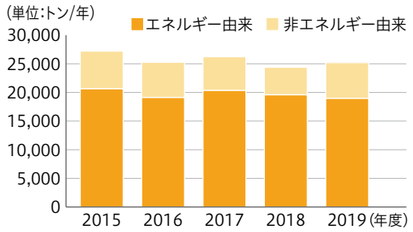
特にPRTR※で定められた第一種指定化学物質の排出・移動量については、2013年度の233トン、2014年度の168トンに比べ、2015年度以降は大きく削減しています。

※ Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度

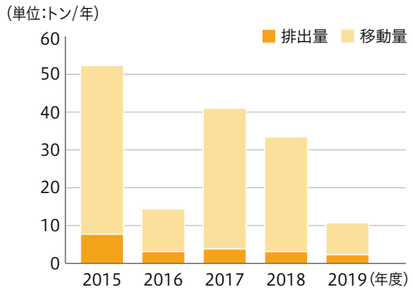
●エネルギー使用量（原油換算）



●CO_2排出量



●PRTR第一種指定化学物質の排出・移動量



●PRTR第一種指定化学物質 トップ5

(2019年度)

化学物質名	2015 ～ 2019 年平均 排出・移動量（トン/年）
①トルエン	20
②塩化ベンジル	4
③クロロベンゼン	3
④塩化メチレン	1
⑤N,N-ジメチルホルムアミド	0.4

●グループ会社の環境データ（単年）

(2019年度)

	エネルギー使用量（原油換算）（キロリットル/年）	CO_2排出量（エネルギー由来）（トン/年）	CO_2排出量（非エネルギー由来）（トン/年）	PRTR排出量（トン/年）	PRTR移動量（トン/年）
クミアイ化学工業	31,551.8	65,934.5	6,248	42.4	393.4
イハラニッケイ化学工業					
ケイ・アイ化成					
イハラ建成工業					
尾道クミカ工業					
ネップ					

小牛田工場における取り組み

クミアイ化学工業の小牛田工場では、工場内で発生する農薬成分含有排水を凝集沈殿方式による排水処理施設にて無害化し、公共下水道に放流しています。

今年度は、排水処理施設の更新を図り、埋設配管の一部を地上配管に変更し、異常事態の早期発見に努めるとともに、さらなる環境の維持管理を行っていきます。

漏洩、異常事態の早期発見に有効な地上配管

凝集沈殿方式の処理設備

環境配慮型の新化学研究所を建設

クミアイ化学工業は、50年後を見据えて「将来にわたって発展できる強い永続企業」を目指し、創業の地である清水地区に新化学研究所の建設を進めており、2023年の竣工を予定しています。現在、静岡県内3カ所に分散している化学研究所の3研究センター（創薬研究センター、プロセス化学研究センター、製剤技術研究センター）の機能を1カ所に統合し、研究開発プロセスの連携をより一層強化することが目的です。

この新化学研究所には従業員が仕事を通じて自己実現できるよう最新鋭の実験環境と創造的なオフィス環境を整備し、人材の育成、ダイバーシティの推進、労働安全衛生の確保を実現します。そして、環境に配慮した省エネルギー型の設備を導入し、周辺環境との調和を図ります。研究活動により発生する排水は微生物分解により無害化し、粉塵や化学物質は排気処理設備により除去・中和してクリーンな空気を排出します。また、研究所内で使用する化学物質について「薬品管理システム」を導入する予定で、購入から廃棄までを一元管理して関係法令を遵守し適正に取り扱います。

新化学研究所イメージ図

新入社員と総務課が道路を清掃

クミアイ化学工業の静岡工場では、新入社員教育の一環として地域社会へ貢献すべく道路清掃を行いました。工場周辺の道路は生活道路のため、工場関係者だけでなく近隣の住民や企業の車が頻繁に往来する中、安全に十分配慮して実施しました。

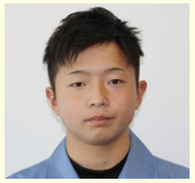
道路清掃は草刈り・ゴミ拾いだけでなくスコップと一輪車を使った土砂の撤去など力を必要とする作業もあります。散歩をされている近隣住民の方々が声をかけてくださるなど喜びや達成感を得ながら、参加した新入社員は清々しい気持ちで清掃を終えることができました。今後も定期的に清掃活動を続けていく予定です。

清掃活動の様子

Voice

工場周辺の清掃活動で深まる地域の皆さまとの信頼関係。

クミアイ化学工業 生産資材本部 生産部 静岡工場 製造二課 第９プラント　鈴木 彰浩



静岡工場では、私たち従業員と近隣住民の方々との関わりを深めながら農薬および化成品を生産しています。その一環として、近隣の皆さまが快適に暮らせるように感謝の気持ちを込めて工場周辺の清掃を実施しています。地域の皆さまとの信頼関係は、これからの生産活動で成果を上げるためにも大切なことです。私たちの生産活動は多くの方々に支えられて成り立っていることを常に意識し、さらに厚い信頼を得られるよう日々努力してまいります。

消費者課題

Consumer Issues

クミアイ化学工業が、製品やサービスを通じて持続可能な社会の実現に貢献するためには、お客さまからの理解と支持が欠かせません。お客さまが抱えている課題の解決をサポートするためにコミュニケーションの機会を増やし、安心して製品をお使いいただくための情報提供に力を注いでいます。

水稲用豆つぶ®剤の普及活動で スマート農業導入を促進

今、国内農業では農地集約や経営規模の拡大が進んでいることから、スマート農業の導入が注目されています。クミアイ化学工業は農業用ドローンやラジコンボート、水田用自動給水装置など生産者の軽労化につながるツールを活用し、拡散性に優れる独自技術である豆つぶ®剤の特長を活かした新しい散布技術の確立に取り組んでいます。

技術の実証には(公社)日本農業法人協会のマッチング制度を利用し、協会に加盟する全国の法人会員から試験協力者を募集しました。試験を受託したある農業法人の例では、散布作業者の負担軽減と所要時間の短縮を両立するため「ドローンを利用した水稲用豆つぶ®除草剤の散布試験」に取り組み、従来の散布作業と比べて1haの散布時間が2分の1に短縮し、1日当たりの実働面積が10haから20haへ拡大するなど、高い労力軽減効果と効率化を立証できました。

また、水田への入水を制御する自動給水装置と連動して、人手に頼っていた入水作業と農薬散布作業の省力化を実現する「豆つぶ®剤の水口施用」の普及に向けて、今年度より実用化試験に着手しています。今後も関係企業と連携してこのようなモデル事例を積み重ね、スマート農業の導入を促進するアイテムとして豆つぶ®剤の最大活用を図り、農業法人の課題解決の一助となるべく取り組みを進めます。

さらに、国内営業本部では農業法人との永続的な関係を築く「パートナー制度」の構築を構想しています。法人が抱える防除上の課題に個別に対応し、モデル事例の提案を通じて適正使用の啓発から経営改善までをサポートする仕組みづくりを目指します。

ドローン×豆つぶ®剤実証試験

ドローン散布で使用した
ベッカク®豆つぶ®250

新型コロナ禍においても 商品の供給体制を維持

クミアイ化学工業の国内向け商品は、農業シーズンが始まる前の2月から4月までの3カ月間に年間の約60%以上がお取引先（お客さま）へ供給されます（2019年度出荷実績参照）。農薬は作物の安定生産と消費者への食料安定供給のために作物の栽培体系に沿って使用される商品であり、商品を期日までにお届けすることが重要です。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大がさまざまな影響を及ぼしましたが、商品の流れを止めないように、3密回避策を基本に、次のような感染防止策を実施して供給体制の維持に努めました。

①物流担当者の感染リスク軽減

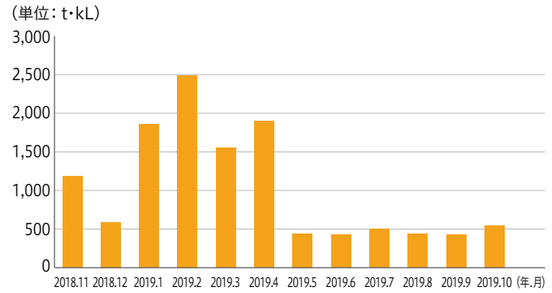
- 通勤時間の長い従業員を中心に、公共交通機関利用による感染リスクを減少させるため、会社近辺のホテルに宿泊して通勤できるように対応しました。宿泊するホテルも別々のホテルにすることで、感染リスク分散に配慮しました。
- 会社の近隣に住む従業員を電車通勤から自転車通勤に切り替え、通勤中の人との接触機会を低減しました。

②業務停滞のリスク軽減

- 万が一、物流部門と同じフロアで感染者が出た場合、物流部門も一定期間業務が止まってしまいます。このようなリスクを回避するため、一部の人員を別の場所に分離し、従業員同士が接触しない業務環境を整備しました。

以上の防止策に加えて、クミカ物流をはじめとする物流業者が細心の注意を払って感染防止に努めたことにより、農作物を安定生産するための商品を生産者の方々へ問題なくお届けすることができました。

2019年度出荷実績(t･kL)



水稲用除草剤の上手な使い方を ホームページで分かりやすく解説

クミアイ化学工業の主力商品である水稲用除草剤を有効にお使いいただくためには適切な圃場管理が重要になります。

そのため、クミアイ化学工業では、除草剤の効果が高まるようにホームページに「安定した除草剤処理層をつくるための重要なポイント」というコンテンツを設けて、圃場管理のポイントを解説しています。

ホームページより

Voice

散布労働力を低減するためドローンの導入を決断しました。

十和田アグリ株式会社　代表取締役　竹ケ原 直大様

稲作、大豆、飼料作物を中心に約150haの耕地面積を経営しています。数年前から使用している豆つぶ®剤は散布時間が短く、効果にも満足しています。地域の農業保全には労働力の確保が必要であり、限られた人員の労働時間の効率化が課題です。昨年、水稲用豆つぶ®除草剤とドローンの散布試験を実施し、散布時間の短縮が実証されたことから作業の分散化が図れると判断し、ドローンの導入を決めました。今後はさらにドローンの活動域を広げたいと考えているので、豆つぶ®剤のラインナップ拡充と園芸作物に使用できる散布適用剤の拡大に期待しています。

コミュニティへの参画・発展

Community Involvement and Development

クミアイ化学グループの各社は、良き企業市民としてコミュニティとの関わりを尊重し、その発展に寄与しています。お客さまや株主・投資家などのステークホルダーをはじめ、さまざまな共同体と積極的にコミュニケーションを図り、本業を通じた社会貢献活動への参画や地域社会との交流を推進しています。

新型コロナウイルス対応の社会貢献

クミアイ化学工業は、新型コロナウイルス感染を予防するための社会的支援として、グループ会社であるケイ・アイ化成の抗菌剤を使用した介護用使い捨てウェットボディタオルを本社、工場、研究所のある8自治体（台東区社会福祉事業団、宮城県美里町、富士市、静岡市、菊川市、掛川市、たつの市、磐田市はケイ・アイ化成が対応）に寄贈しました。さらに、医療従事者への支援として日本赤十字社へ寄付（200万円）を行いました。

また、グループ会社であるイハラニッケイ化学工業は、蒲原病院にマスク1,000枚、静岡市清水区役所蒲原支所にマスク2,000枚を寄贈しました。

日本印刷工業がホスピタルアートプロジェクトを応援

ホスピタルアートとは、病院や福祉施設にアートを導入して患者の精神的なケアに役立てようとする取り組みです。日本印刷工業では、クミアイ化学工業、イハラ建成工業、クミカ物流とともにグループとしてホスピタルアートプロジェクトを支援しています。

そのきっかけは、2018年に“重い病気の子どもたちへの学び活動”を行っている静岡文化芸術大学の学生団体から届いた支援依頼でした。病院の中でアート制作のワークショップを開催し、展示会を行うという取り組みを知るとともに、入院治療のため学ぶ意欲を満たされない子どもたちを笑顔にする活動に感銘を受け、支援を始めました。

ホスピタルアートプロジェクトは、病気で苦しむ子どもたちに作る喜び、学ぶ喜び、笑う喜びを与えるものです。その笑顔が支援する私たちの喜びであり、活力の源になっています。

2019年に行われた“星のランプ”展示

イハラニッケイ化学工業のスポーツ支援活動

①VELTEX（ベルテックス）静岡へ協賛

イハラニッケイ化学工業は、静岡を拠点とする男子プロバスケットボールチーム「VELTEX静岡」に協賛しています。「VELTEX静岡」は「スポーツで、日本一ワクワクする街へ」をミッションに掲げ、スポーツを通じて、子どもたちはもとより大人たちも熱狂できる「ALL静岡」を目指しています。イハラニッケイ化学工業は、この「街づくり・人づくり・夢づくり」の理念に共感し、ともに地域貢献活動に取り組んでまいります。

2020-21 シーズンクラブスローガン

試合風景

②タイで清水エスパルス主催のサッカースクール支援

イハラニッケイ化学工業は、株式会社エスパルスがタイでCSR活動の一環として行っているサッカークリニックに協賛しています。現地では清水エスパルスの選手、コーチによる指導を行い、イハラニッケイケミカルタイランド(INCT)サポートのもと、近隣住民・学生、養護施設の子どもたちを対象に、サッカーの楽しさを通じた健やかな成長に寄与しています。

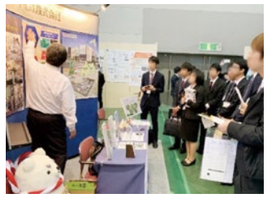
クリニックの参加者たち

ケイ・アイ化成の「産業振興フェアinいわた」への参加

静岡県磐田市は、地域産業の活性化と新産業の創出を目的として2010年より磐田市、磐田商工会議所および磐田市商工会の主催による「産業振興フェアinいわた」を毎年11月頃に開催しています。

ケイ・アイ化成は2015年からフェアに参加し地元企業との交流や、就職を志望する学生への会社説明会を行ってきました。今後もフェアへの参加を通じて、地域の活性化に貢献していきます。

開会式



ケイ・アイ化成のブース

イハラ建成工業の取り組み

イハラ建成工業は、以下の3つの取り組みを中心に地域社会への貢献を推進しています。

①安全運転の呼びかけ

毎月10日に本社ビル前の国道で朝の通勤時間帯に合わせて行き交うドライバーに安全運転を呼びかけています。

②地域清掃活動

本社ビル周辺地域の道路やカーブミラーの清掃を定期的に実施しています。

③災害復旧に備えた現場待機

台風等の自然災害発生時には夜間も現場員が事務所に待機し、災害復旧要請に対応しています。道路冠水場所の通行止め処置や土砂災害の復旧を迅速に行い、市民の安全を守ることが目的です。

①のぼり旗を掲げる従業員

②安全に注意してカーブミラーを清掃

③災害復旧作業

尾道クミカ工業の取り組み

尾道クミカ工業は、地元高校の吹奏楽部のクリスマス公演と毎年7月に開催される「おのみち住吉花火まつり」に協賛しています。尾道では季節毎に新旧さまざまな行事、祭りが開催されますが、中でも住吉神社の花火まつりは人気のイベントで毎年20万人の人出があります。

残念ながら2020年は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりましたが、今後も応援を継続します。

Voice

地元への就職を希望する学生や企業との交流を深めたいです。

ケイ・アイ化成　機能性薬品部　テクニカルセンター 中谷 皆穂

「産業振興フェアinいわた」は主に静岡県西部の企業が参加しているため、地元への就職を考えている学生にとって、企業研究の良い機会となっています。私も、ここでケイ・アイ化成を知ったことが入社のきっかけになりました。

このフェアを通して、学生や他の企業と積極的に交流を図るとともに、静岡県西部には多くの良い企業があることをもっと広めていきたいと感じています。